

「地域づくりオープンカフェ」発言内容（概要）

- 1 開催日時 平成26年2月1日(土)12時30分～15時30分
- 2 開催場所 ホテルサンルートプラザ福島 2階 「芙蓉」
- 3 主な意見等

【今年度取組を行った大学生】

- 住民へのヒアリング調査やアンケート調査の結果、集落で集まる行事があまり行われていないことや集落が抱える問題に対して自ら取り組む意識が低いことが分かった。集落全体で集まる場所や機会をつくり地域の活性化への意識向上をはかるべき。公会堂の建て替えや廃校となった小学校の体育館の小規模リフォームの提案。
- 小さな地区に高低差のあるきれいな農道があり、そこを歩いているとリフレッシュできた。集落内で珍しい形をした岩を発見した。その岩を活用して集落に人を呼び込めたら良いと思う。
- 豊富な観光資源と集落存続に期待できる若い年代を発見。観光資源を生かした雇用創出へ向け、お散歩マップの作成と農家民宿の推進を提案。
- 集落の課題は、観光地なのに集落の名前があまり知られていないこと。情報発信ができていないので県外のイベントに出展し、PRを行うべき。
- 温泉の場所や利用方法が分かりにくい。来訪者が温泉を利用しやすいよう、のれんや案内板を設置する。
- 仮設住宅の方が昔は普通にやっていたことでも避難後全くできなくなってしまったことが出てきている。復興とは仮設住宅の住民が以前の生活を取り戻すことだと思う。
- 住民は避難していてもきっかけがあればモノ作りをやってみたいと思っている。モノを作り他の人に食べてもらうことが住民の生きがいになる。
- 仮設に住んでいる住民一人ひとりが宝だと思う。今回行ったモノづくり等を通し、もっと仮設住宅を活性化させていきたい。そして仮設の方が作ったものを製品化して盛り上げていきたい。
- 若者不足や高齢化といった問題を抱えていても住民は今の生活に不便を感じておらず、問題意識をもっていない。
- 人を今後呼び込まない限り、地域活性化は難しいと思う。
- 集落内にコテージがある。そこで、大学生のゼミ合宿とかができれば良い。
- 集落に「学生が訪問することで地域が明るくなった。」「日常的な交流がうれしい。」という意見があった。
- 今年度は地域のイベントに参加することが多かったが、今後は、学生側で企画していきたい。
- 外部の人には目新しい郷土料理などの食を地区の人は当たり前で魅力と感じていない。
- 農家民泊で地区の魅力を満喫できるが、住民が自発的に行うのは難しい。公的支援が必要。

- 県外で行われたイベントに参加し、ペットボトルに入れたコメを販売。コメを購入した方から「こんなにおいしいお米は初めてだ。」という手紙が届き、集落の米のおいしさが分かった。
- 県外へのアピールも重要だが、県内、市内向けに集落を紹介する広報誌を作成したい。
- 富士山マップを作成した。マップ作成中に富士登山道の案内板の設置や眺めの良い場所の景観の整備が必要だと分かった。
- 集落出身者約90名に季刊誌を発送予定。農産物の直販活動につなげたい。
- 「こづゆ」や「ちまき」は地域や家庭によって作り方が様々であることが分かった。その一つ一つの味を丁寧に記録して伝えていくことが大切であり、これらの文化を受け継ぐためレシピ化や体験の機会を作ることを提案。
- 「ほうき」や「こづゆ」などの食文化を受け継ぐことで世代間交流もできると思う。
- 昨年の実態調査で地域資源の福寿草を活用した地域づくりを行うことを決め、今年は福寿草祭り開催に向け、福寿草の群生地の見学や遊歩道の設置等の準備を行った。
- イベントをやること自体が初めてで、何をしたらよいか分からないことからスタート。先進地視察や大学祭に集落と共同出店を行うことでイメージが湧いた。
- 月に1～2回集落を訪れて活動することで集落との信頼関係の構築ができた。

【受入集落住民の方々】

- 当集落は、安達太良山と吾妻山の絶好のロケーションに恵まれているので、お散歩マップを作成したらよいのではないかと大学生から提案をいただいた。集落の人たちが気付かなかったことを大学生に考えていただいたので今後とも発展させていきたい。
- 集落には温泉、赤カブ、そばと素晴らしい観光資源がある。資源がせっかくあるのに情報発信がうまくできず中々客に来てもらえないのが現状。今回は、観光資源を生かし切れていない問題を解決するため学生に力を貸してほしいと思いこの事業に応募した。
- 全村避難している。本来は身近なところで一緒に調査をできればよかった。仮設での生活はどうしても引っ込み事案になる。そこへ大学生が来てくれ、モノを作るということを通じ元気になった。大学生と物作りをしたことで元気と希望をもらった。
- 大学生との梅干し作りを通し、震災以前、当たり前前にできていたことが一番幸せで、大切なのだと気付かされた。
- 今回大学生を受け入れて住民が寂しがっていることが分かった。常日頃1人、または、夫婦2人で生活をしている人が若者と交流した時に非常にうれしい笑顔になると感じた。
- 学生が敬老会に参加してくれると発表の中にあっただが、それだけで終わらず、今年、来年と受け入れていきたい。
- 行政の支援をいただければ非常に良い機会になると思う。
- 学生を受け入れて2年。学生が来た際に住民は皆、孫が帰ってきたという意識が本当に強くなってきた。
- 我々は地区に何もなかった中で、学生さんは十三講式の餅柱がすごいと発見してくれた。十三講式に関する事業を展開していこうと思う。
- 学生が地区のイベントに4回来てくれ、一緒に野菜等を収穫し、料理を作る活動をした。

- 昨年、住民が普段自分の家で食べているものを持ち寄り学生に食べてもらった。学生からは、売れるのではないかというような意見が出た。現在は、それを商品化し、販売できれば良いと思っている。集落も組織化をして、できることから始めていきたい。
- 2年間、学生さんに地域の魅力発見から行ってもらい、首都圏のイベントに参加し米を販売するまでに至った。米を販売したところ非常に評判がよく、お便りをいただくこともあった。自分たちの米がおいしいということが分かり今後米の販路拡大に努めていければと思った。
- 学生との活動の中で日本で2番目に高い富士山があることが分かった。その結果、村おこしに富士山を活用しようということになった。
- 集落出身者の親戚ネットワークを作って自分の生まれた故郷に再び温かい目を向けてほしいということになった。去年はスノートレッキングを始めた。今年は、一緒に山開きをし、物販販売を行っていきたい。
- 学生に2年間来ていただいて、自分たちの孫とか娘とかが帰ってきたというような思いをさせてもらった。これで終わるのではなく、今後もこのような活動を継続していくことが大切なのではないかなと思う。今後ともよろしくお願ひしたい。
- 福寿草で集落の活性化を図りたいと前区長さんが10年前くらいから考えていた。それがようやく実現した。県や町の支援で学生との交流ができてとてもうれしい。

【2年目グループから1年目グループへのアドバイス】

- 活動の継続が大事だと思うので、ゆっくりお互いのリズムでやる必要があると思う。
- 集落との連絡の取り合いが重要。

【司会】

- 大学生の皆さんが集落に入り、「こんにちは、また来たよ」と言い、「おう、よく来たな、また来いよ、泊りに来なよ」という、一言一言が交流の活性化になると思う。それを若者と集落のお年寄りが互いに気づくことで、田舎でも暮らしていける、田舎にはかえって美味しい空気やモノがいっぱいあり、人間らしい暮らしができるかもしれないということに繋がると思う。
- 震災などが発生した際に、集落に自分達でなんとかしようという気持ちがなくなり、完全に自治体を頼ってしまうのが一番いけないと思う。そんな時に若い方達がいるよ、バックアップするよ、手伝うよ」と言うのと言わないのとは全く違う。是非、この活動を継続してほしいと思う。